

2022年度 学校推薦型選抜試験 法学部 法律学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
46	39

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力(リーガル・マインド)を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

総合型選抜入学試験では、志願者の自己推薦ポイント(人間性、活動実績、将来への夢・希望など)が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

今回の小論文問題の出題の意図は、本学科のアドミッション・ポリシーのうち、社会の動きに広く関心を持っている人物、物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物であるかどうかを判断することを目的としています。

この小論文問題では、まず問題文の読解と併せて、志願者が現在のわが国の社会における問題について具体的な内容を含めて説明することにより、現代の社会について、どのような点に受験者の問題意識があるのかを明らかにしてもらいます。その上で、その問題に関して法律に基づく問題解決の可能性について検討し、その内容を論理的に説明することを通じて、物事を柔軟かつ論理的に考え、それを自らの言葉で的確に表現し、展開する能力があるかを問うものです。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし

2022年度 学校推薦型選抜試験 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
65	40

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を進展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

3. 出題の意図

今年度の小論文試験は、つぎのような「出題の意図」をもって出題しました。すなわち、アドミッション・ポリシー（以下、「AP」という。）のうち、「2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。」に関する力を測るために出題したということです。このことは、既に公表されているルーブリックにある通りです。したがって、問題文では「中城村の条例」を例に出しましたが、これをAPに沿った形で、あなたの住む市町村に引き直して論じていただくことを意図としています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

「出題の意図」は上記の通りですので、「評価のポイント」は、あなたの住む市町村の「課題」を適切に指摘することができるか、あなたが指摘した課題の「解決策」を、新たなルール（条例）として適切に提示することができるか、の2点となります。なお、この2点は解答のための「ヒント」として、問題文中の「条件」に記載していました。

最後に「アドバイス」ですが、現在の入試制度では、ルーブリックに基づいて合否が判定されます。そのため、APとルーブリックの理解度が合否に直結するので、これらは何度も読み返すようにしてください。

2022年度 学校推薦型選抜試験 経済学部 経済学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
47	36

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1. 経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2. それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3. それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4. 経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5. 経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

3. 出題の意図

本小論文では、現在我々の身の回りで起きている社会問題がどのような形で経済的影響を生み出しているのかを具体的に考え、課題を提示し、解決に向けた提案・考えを論理的に主張できるかを確かめることを狙いとする(アドミッション・ポリシー1及び3に関連)。また、問いをとおして、経済学科で学びたいことを自覚し、関連する諸分野に関心を有しているかを確認したい(アドミッション・ポリシー2及び4に関連)。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

本論文の評価に際しては、「新しい働き方」をめぐる沖縄県の現状と課題について、新聞やメディアなどで取り上げられる情報、自身のこれまでの知識や経験などをもとに、論理的に説明することがポイントとなる。「新しい働き方」が、労働生産性の向上、女性の活躍の推進、少子高齢化問題、地域創生などの課題と関わっていることを押さえた上で、自身が関心を寄せる問題(沖縄県の抱える社会経済問題(県民所得の向上など)との関連、沖縄経済の特性(サービス産業の割合の高さなど)に起因する課題、ワーケーション需要を取り込むための取り組みなど)について、意見を示してほしい。

2022年度 学校推薦型選抜試験 経済学部 地域環境政策学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
54	46

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の1～4について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1. 沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2. 沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3. 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド(現場)に出て、積極的に活動することが好きな人
4. 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、受験生が経済学部地域環境政策学科で学ぶ上で必要な能力をどの程度持っているかを見ることです。

沖縄県が抱えている課題として経済と環境の両方の問題が収められているのが、米軍基地、自衛隊基地問題です。経済では軍用地借料、基地従業員の所得、米軍人軍属家族らの消費支出など、県経済に与える影響など「基地依存経済」があります。環境問題でも水道水汚染などで注目されるPFOS汚染、爆音被害、返還跡地から出る有害物質の処分問題などがあります。いずれも日米関係やSDGsをはじめ世界的視野での論点の理解と分析の視点が不可欠です。

の設問を通して、日ごろから「地域経済」に関する関心をどの程度持っているのか、新聞やテレビ、書籍、論文など基本的な情報収集力、理解力、分析力、問題解決に向けた提案力などを測ります。また具体的な数字をあげて論じることで、事実に基づく論理の展開に対する基本的な姿勢を測ります。さらに、基地経済に関する記述を通して地域社会への関心度を測ります。

の設問を通して、日ごろから「環境問題」に関する関心をどの程度持っているのか、基地と環境問題のかかわりに関する記述を通して環境問題に関する関心度と情報

に関する感度、確度、問題の本質を見抜く探求力、訴求力を測ります。

「文字数」は 800 字以上～1000 字以内とすることで、文字数内での表現力、文章の展開力、まとめなど基本的な文章表現力を測り、大学教育に必要な基本的な力量を測ります。

全体として、知識や情報の正確さ、自ら考え、解決策を提案できる能力があるか否か、地域の経済や地元の環境に関心があるか否か、これらは、本学科のアドミッション・ポリシーの内容に受験生が合致しているかどうかを判断するものです。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

論じる事実が正確か否か、風説やネット情報のフェイクニュースなどに惑わされず、確度の高い情報を収集したうえで、与えられたテーマに関する「現状、課題、展望」を論理的に展開できているかを評価のポイントとしました。

なお、決められた原稿用紙の使い方から逸脱しているもの、全体の文字数の不足、文字数のオーバーは 10 点～50 点を減点、漢字の誤記、誤字、脱字については 1 個につき 1 点を減点した。

2022 年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 企業システム学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
63	47

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の 3 分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の 5 項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え方、意見を持っている人物を求めます。

3. 出題の意図

企業システム学科では学生に、日ごろより、自身の地域がかかえる身近な課題や社会問題(ビジネス・企業問題含む)に関心を持ち、主体的に考えてほしいと思っている。今年度の学校推薦型選抜試験では、受験生にとって身近な地域問題・社会問題をひとつ提示し、それについて考察してもらう。問題に対して、それを理解し、深く考え、自身の見解をまとめ、それを表現する力をみていきたい。理解し、考え、まとめ、表現する過程にあっては、高等学校 2 年生課程までに修得した知識(たとえば「政治・経済」「現代社会」「ビジネス経済」などの科目で修得した知識)をうまく活用できているかどうかをみていきたい。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2022年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」
(タイプⅠ・タイプⅡ)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
61	45

タイプⅠ、タイプⅡの総計

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。

また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

産業情報学科では、自ら進んで深く学ぼうと努めている学生を求めています。設問では、地域社会が抱える課題を通して、経済活動が果たす役割と情報技術の新たな活用についての関心の高さを問う内容となっています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2022年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」
(スポーツ推薦)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
2	2

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場に必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

小論文試験は、以下の出題の意図に基づいている。

普段の生活(または競技)における情報通信技術(ICT)について興味・関心があるか

普段の生活(または競技)における課題について、自身で考えているか(分析できるか)

競技に取り組みながら、その競技(またはスポーツ全体)の更なる発展について考えているか

競技を通じた自身の成長・発展について考えているか

高校スポーツ(部活等)におけるICTの導入の課題を考えたことがあるか

課題に対する解決案を考えられるか

沖縄国際大学 産業情報学部 産業情報学科で提供する科目等について調べたことがあるか

か

自分の考えを論理的に述べることができるか

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

産業情報学科では、「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、かつ学ぶ意欲のある人物を求めています。今回の小論文試験では、出題の意図 ~ ~に加えて、の論理展開に無理はないか、語句の用法に誤りはないか、指定された文字数でまとめているかを評価しました。

日頃から新聞などを読む習慣を身につけ、国際社会、日常生活、情報技術等の課題に加えて、新たな取り組みと活用について関心を持つようにして下さい。また、自分はどう考えるか、できることは他にもあるのでは、他にも活用できるのでは、といった視点を持つことも大切です。さらに、小論文試験対策としては、時間的な制約と文字数の指定を踏まえた、書く練習をすることもお勧めします。

2022 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 日本文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
37	37

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

総合型選抜では、上記の 3 項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

1. 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
2. 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
3. ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

3. 出題の意図

日本文化学科では、言語学・文学を中心とした、日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーション、という3つの専門領域に関わる試験問題を毎年出題しています。今年度は哲学者の随筆から出題しました。【問1】は要約問題、【問2】は意見文問題となっています。いずれも、アドミッション・ポリシーの3にある、「基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)」を身につけているかどうかを評価するための問題となっています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

【問1】の要約問題については、「要約」がどのようなものを理解しているか、課題文の要点を全て含んでいるか、を整理する際の論理の流れが適切であるかどうか、既定の文字数に達しているか、という4点を評価しています。

【問2】の意見文問題については、作者の主張を理解しているかどうか、作者の主張に対する自分自身の意見とその論拠が適切に展開されているか、語彙力が高いかどうか、既定の文字数に達しているか、という4点で評価しています。【問2】については、「自由な観点」とあるので、作者とは別の視点に立って、自分自身の体験や考えを述べることも可能です。

2022年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 英米言語文化学科 「出題の意図」
(タイプA・タイプB)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
37	37

タイプA、タイプB の総計

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人(総合型選抜:英検2級、CEFR B1程度の英語力を持つ人)
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、チャレンジ精神と意欲に満ちた人物、英語力の向上に積極的に努力する人物、英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物、他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築に努力する人物を求めています。本テストにおいては、英語で情報を読み取り、日本語で要約する課題を通して、英語圏の言語や文化に関する興味・関心・知識、一定量の情報を的確に読み取る英語力及び積極性、そして収集した情報を簡潔にまとめる発信力及びコミュニケーションへの意欲を判断します。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2022 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 英米言語文化学科 「出題の意図」
(スポーツ推薦)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
2	2

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的の学力を持つ人(総合型選抜:英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人)
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、孤独に関する心理学的研究について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2022年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 社会文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
21	19

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的的好奇心と知的探求心をもつ人物
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物

3. 出題の意図

今年度の小論文課題は、本学科のアドミッション・ポリシーのうち、特に1～3で挙げた諸要素の有無を判断することを目的とした内容になっています。

本学科は、沖縄の歴史・文化・社会を総合的に学ぶという特色をもっています。したがって、本学科の受験生の多くは、これらに関連する諸テーマに関心をもっています。

他方で本学科では、その学びを沖縄内だけにとどめるのではなく、広く世界の動向や諸問題とのかかわりの中で沖縄を考える視点の重要性も、併せて強調しています。

こうした背景のもと、今回の小論文課題は、個別地域（郷土）の歴史・文化・社会的事象にどれほどの関心をもっているか、それをより広い世界との繋がりで考えることができているか、それを考えるための基礎学力を備えているかどうかを確認するために、出題されています。（なお、沖縄県以外からの受験生に配慮し、本小論文課題でいう「郷土」は個々の受験生にとっての「郷土」としても構わない、としました）

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2022 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
15	15

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

- . 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
- . 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
- . 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か
2. 大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か
3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
5. 社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、前述の社会福祉専攻のアドミッション・ポリシーの1.「社会福祉の専門家としての資質がある」および、2.「社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有する」かどうかを評価することです。

今回テーマとした「地域包括ケアシステム」について、受験生がどの程度関心をもち、自らの意見を整理して論述することができるかを評価します。特に、超高齢社会の問題を個別の問題

としてだけ捉えるのではなく、社会問題・生活問題等と結びつけて考える視点が備わっているかどうかを評価します。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

(1) 評価のポイント

今回の出題にあたっては以下の3点が評価のポイントとなっています。

医療・介護の問題や地域の問題を解決するための「地域包括ケアシステム」に関してどれくらいの知識や関心をもっているか。

このテーマをめぐる医療・介護の問題や都市部・過疎地域等の問題をどの程度知っているか。

自分の知っていること、自分の経験したこと、自分の考え、自分ができていることを関連付けて、自分の意見として論述する能力があるか。

(2) アドバイス

日頃から、身近な出来事やニュースに対して関心を持ち、それに関連する自分の経験を意識的に振り返ったり、当事者としての視点(自分だったらどうするか、自分に何ができるか)で考えたりする、意識して気づき、考えるという作業を習慣にしましょう。同時に、振り返ったこと、考えたことを自分の言葉で身近な人に説明したり、意見を交換したり、文章化するなどの作業を積極的に行うとよいでしょう。

2022 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
30	28

タイプ 、タイプ 、スポーツ推薦の総計

2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

- 1.人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
- 2.これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの中でも、特に1.にあるような人間のこころと行動に関心を持ち科学的視点から学ぶ意欲があるかどうかを評価することです。日常生活の出来事について、人のこころがどのように関わっているかに気づき、科学的な視点で考察することができるかを評価します。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

評価のポイント

- ・考えのもとになっているものは自分の経験だけではなく、心理学の知識や理論に基づいたものかどうか。
 - ・自分の考えを論理的な文章で書き表せているかどうか。
- 以上の点からも評価されます。